

教員養成系大学における集中講義での 表現系ダンス授業の実践的研究

津田麻希子・佐藤 文

要 旨

ダンスのジャンルが多様化し、ダンス経験者が増加傾向にある中、いまだに身体で表現することに抵抗がある学生は少なくない。「苦手」意識を軽減するためには、表現することの楽しさをまずは教員を目指す学生本人が知ることが大事である。ダンス＝体現する楽しさであったり、仲間と作品を創り上げる楽しさを経験することで、苦手であるという意識に変化が見られるかを調査し、報告する。

キーワード：ダンス、体現、創作

1 はじめに

文部科学省では平成20年3月より、中学校保健体育において、「武道・ダンスを含めたすべての領域を必修」⁽¹⁾とした。ダンスは「創作ダンス」、「フォークダンス」、「現代的なリズムのダンス」で構成されており、「イメージをとらえた表現や踊りを通じた交流を通して仲間とのコミュニケーションを豊かにすることを重視する運動」⁽¹⁾こと、さらに「仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージをとらえて自己を表現したりすることを楽しさや喜びを味わうことのできる運動」⁽¹⁾として位置付けられた。

しかし過去の森らの表現運動指導の実態調査報告（1981年）によると、ダンスは「運動領域の中でも特に指導しにくい」⁽²⁾という調査結果が出ている。また、寺山（2007年）は小学校教員に焦点をあて「表現運動指導の指導場面で困難と感じていること」、「指導により学習者がどうなったと捉えているか」を調査したところ、「何を教えたらいいかわからない指導者は、その不安か

ら授業を展開する自信が欠落し、最後には指導しないという負の連鎖に陥ると、学習に意義を認めても実践できないことになる」⁽³⁾ことを課題に挙げている。

今回、小・中・高の教員を目指す学生がいるH大学にて、基本運動のダンス授業を担当した。小学校教諭を目指す学生もいるため、基本運動では表現運動系に重きを置いた授業を展開した。小学校学習指導要領の中では、「表現運動系」と「ダンス」という表記があり、さらに表現運動系には、「表現リズム遊び」と「表現運動」で構成されている。

中学校・高等学校保健体育で扱うダンスにおいて、表現系とリズム系は自由に動きを工夫し創造的な学習に対し、フォークダンスは伝承された踊りを再現して踊る定形の学習＝文化の継承となる。

『「表現系ダンス」は、1920年代に確立された「モダンダンス」に由来し、一人一人の個性に応じて創造的なダンスで表したいイメージや思いを自由な動きで踊る』⁽⁴⁾とされている。そこで、学習指導要領にも記載されているように、「イメージをとらえた表現や踊りでの交流を通して仲間とのコミュニケーションを豊かにする」⁽¹⁾授業を展開したいと考える。

ダンスのジャンルが多様化し、ダンス経験者が増加傾向にある中、いまだに身体で表現することに抵抗がある学生は少なくない。「苦手」意識を軽減するためには、ダンスに抱くハードルの高さにあると考える。表現することの楽しさをまずは教員を目指す学生本人が知ることが大事である。ダンス＝体現する楽しさであったり、仲間と作品を創り上げる楽しさを経験することが、学生たちの意識の変化にどのように影響するかを振り返りシートから調査報告する。

2. 方 法

授業前後での振り返りシートの内容をデータとしてMicrosoft Excelを使用しまとめた。自由記述はKH Coder 3AS Basicを使用し、共起ネットワークを作成する。共起ネットワークは、出現語数の多い語ほど大きい円で描画されているため、データ全体像を視覚的に把握することができる。その関連性から感想の分類を行い、共通の気づきや課題について考察する。設定は、最小出現語数を5、Jaccard係数を0.13とした。

対象者はH大学教育学部の中学・高等学校体育系および小学校教諭を目指す1～3年生、男女30名（男15名、女15名）を対象に行った。振り返りシートの使用に関しては研究の趣旨を口頭で説明をした上で、書面によるインフォームドコンセントを得た。

ダンス授業でもICT教育は必須と考え、音源や動画、静止画の撮影等でスマートフォンを活用することとする。

3. 結果と考察

基本実技（陸上競技・ダンス）の授業のうち、二日間の集中講義で全7コマのダンスを担当した。7コマの授業は以下（表1）の内容で行った。

グループワークを中心に学生が積極的に参加出来るよう、身近なもの・馴染みのあるものをテーマに作品づくりを行った。理由としては、イメージが湧きやすいのではないかと考えたからである。

しかし、ダンス経験のない人に「では作ってみよう」ということは出来ないので、まずは簡単なステップを教え、習得したステップでウォーミングアップを作るということを第一の課題とした。他学年合同の授業であるため、突然学年をバラバラにすると抵抗があると考えたため、まず

表1 各コマの内容と目的

		内 容	目 的
1 日目	1 回目	簡単なステップの習得	ステップタッチ、グレイプバイン、ブイステップ、ニーアップの4つのステップを組み合わせ、アレンジ出来ることを学ぶことで、動きの幅を広げられるとすることを学ぶ。
	2 回目	簡単なウォーミングアップを作成	各学年に分かれ、選曲と振り付けを考える。3年生は人数が多いため、男女のグループに分けた。作成後はミラー（対面）で発表し、指示を出しながら発表。発表以外の人たちは各グループのアップを体験する。
	3 回目	創作1：テーマや題材を決める	1～3年生混合のグループワーク。各地元またはそれぞれが行っていたスポーツをテーマにそれぞれの題材を挙げ意見を出し合い、題材を決める。
	4 回目	創作2：選曲とイメージ画像の撮影	それぞれの場面ごとのイメージを可視化するため、イメージを体現し、描写として形等を体現し、撮影をすることで、創作する際の動きのヒントとする。
2 日目	5 回目	創作3：題材に沿って創作①	場面ごとの曲に合わせた動きを繋げていく。それぞれのグループが思い描く動きをもとに作品を完成させていく。
	6 回目	創作4：題材に沿って創作②	発表に向けての作品練習。自分達で作上げた作品を踊り込むことで、作品に対する愛着が湧き、恥ずかしさを取り除く。
	7 回目	各グループ 発表	授業の集大成として人前で発表。体現することは恥ずかしいことではないということ、楽しいということを自ら学ぶことで、将来的に子どもたちにその楽しさを伝えられるようにする。

は同学年でのグループワークとし、選曲も各グループで話し合い、自分達が楽しいと思える音楽で作るよう指示をした。

曲が被ることはなく、それぞれのグループの特徴が出ており、盛り上げ方もそれぞれの面白さが出ていたと感じる。1日目午後からのグループワークは1グループ5人。1～3年生混合のグループに分け、テーマ決め、選曲、作品づくりと言った具体的な内容で進行した。また、場面ごとにイメージする静止画を撮影することも1日目の課題とした。表1は各コマの内容と目的を表記したものである。

3-1. 授 業 前

授業のはじめに、「今回の授業で目標とすること」を記入してもらった。目標の内容を確認し分類分けをすると、「楽しむ(8)」「創作(2)」「表現する(15)」「苦手解消(3)」「指導方法(1)」「その他(1)」の6つに分けることが出来た(括弧内は実数)。

一番多く使用されていた「表現する」では、「自分を表現できるようになる」や「自分のカラを破ること!」,「出来ないなりに一生懸命取り組みたい」などの記載があった。

次に多く使用されていた「楽しむ」では、「恥ずかしがらずに大きく表現し、笑顔で楽しく踊ること!」や「少しでも楽しむ」,「周りのみんなと笑顔でダンスを楽しみたい」といったことが書かれており、多くの学生が、実際の実技に入る前には、楽しむこと、そして、表現することに挑戦することが挙げられた。「苦手」では、「苦手を少しずつ減らしていくこと」,「ダンスの苦手意識解消!」などといった内容が書かれていた。

3-2. 授 業 後

授業終了後に、授業を受けての振り返りを自由記述で回答してもらった。その結果を共起図で示す。共起図は、8つのグループに分かれた。

多くの学生は、「ダンス」「楽しい」「自分」「表現」「感じる」「テーマ」「人」の共起が見られ、「ダンス・表現が楽しかった」ことが言える。これは、今まで自分が抱いていた印象・イメージとは違い、楽しくダンスをすることができたことに繋がったと考える。実際の回答は、「技のうまさや綺麗さを求められるダンスは苦手意識があったけれど、この2日間のような想像力や表現力が求められるダンスはとても楽しかったです」「技能のイメージから、多様に創造し、表現することがダンスの楽しさであると、自分のダンスへのイメージが変化した」「自分が教師になった際にも、楽しさがあるダンスの授業にしていきたいと思います」「テーマからさまざまな発想を身体で表現するダンスは授業の中で取り入れる理由がなんとなく分かった」などの感想がみられた。

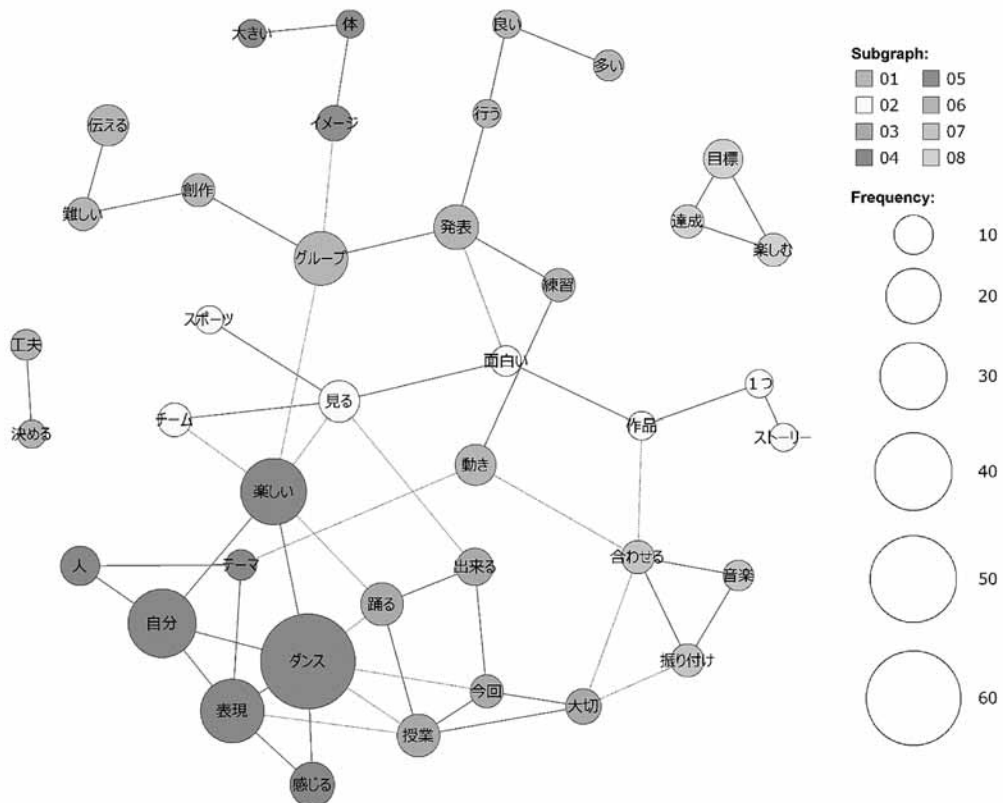


図1 「最後の振り返り」自由記述の結果

次に多く見られたのは、「グループ」「発表」「練習」「動き」「創作」「伝える」の共起が見られ、「グループで創作し発表することの良さ」に繋がったと考える。実際の回答としては、「テーマに沿った動きや、自分以外の人と動きを合わせる中で、ダンスの楽しさを学ぶことができたと思います」「他のグループとは一味違った面白い作品に仕上がったので、発表の時は盛り上げられて楽しかった」「グループで創作活動している時は、みんなで色々なアイデアを出していく中で、盛り上がりたりもして楽しみながらできて良かったと思う」「みんなの発表を見てると、同じ題材でも視点や表現の仕方が異なっていて、見ていて面白かった」などが挙げられた。

特徴が見られたまとめとして、「面白い」「見る」「チーム」「スポーツ」「作品」「1つ」「ストーリー」の共起である。「見る事の面白さ」そして、「見る側の役割の学び」に繋がったと考える。実際の回答は、「他のグループとは一味違った面白い作品に仕上がったので、発表の時は盛り上げられて楽しかった」「一つ一つの動きを説明して伝えたいと思っていましたが、言葉がなくても伝えられるのがダンスの面白さだと思うので、これから工夫してもっと上手く伝えられるようにしていきたい」「みんなの発表を見てると、同じ題材でも視点や表現の仕方が異なってい

て、見ていて面白かった」「ダンスをする側に加え、見る側にも大きな役割があり、見る側が場の空気を作ることによって、発表する側が堂々とできるようになることを理解した」などの回答を得ることが出来た。

次に、「踊る」「出来る」「今回」「授業」「大切」の共起においては、授業での表現系ダンスの創作の大切さへの気づきが見られた。実際の回答では、「テーマからさまざまな発想を身体で表現するダンスは授業の中で取り入れる理由がなんとなくわかった」「プロと呼ばれる人たちが踊っているものだけがダンスではなく、何かを動きを用いることで表現することが、この授業でのダンスであると考えることが出来ました」「ダンスは音楽に合わせてリズムを取るから難しいと思っていたけど、さまざまな動きを自分達が考える創作ダンスでは、班員みんなで案を出し合って考えたので良い作品を作ることができたと思った」と言った気持ちの変化が見受けられる感想も見ることができた。

そして、「工夫」「決める」の共起からは、ダンス指導をする際の工夫についての学びも見られた。実際の回答は、「将来、現場に出て体育の授業としてダンスを行う際は、今回の学びを活かし、良い雰囲気で行うような工夫をしていきたい」と言う、将来に繋がる回答を得られたことは今後の研究に繋がると考える。

また、授業前の目標への振り返りとして、「目標」「達成」「楽しむ」の共起も見られた。「楽しむこと」や「苦手解消」を掲げていたが、表現系ダンスを経験し目標達成に繋がったことが言える。実際の回答として、「楽しむこと、一生懸命やることが目標だったので、達成できたと思う」「目標であった自分の「カラ」は、少しだけ破れた気がします」「目標にしていた楽しんでやるという部分はしっかりと達成できたと思う」などが挙げられた。

3-3. 創作活動中

グループワークを中心に創作活動を行う時間を設けているが、グループワークは6箇所に分かれていたため、各教室を巡回し声かけをした。黒板を使用し、イメージを書き出しているグループもあったり、動きながらイメージを固めているグループもあったりで創作の段階で各グループの個性が出ていたように思う。また、まとめ役がいるグループは進みが早く、出来上がるまで早かったが、遠慮しあっているグループは意見がなかなかまとまらないという傾向も見られた。選曲に関しては、メロディーが単調なグループは曲に変化が少ないためか、動きを考える際に苦戦していた。

4. 課 題

今回はアンケート調査という形ではなく、振り返りシートを利用した報告となったが、次回はアンケートを用い、詳細を明らかにし、今後のダンス研究に繋がたいと考える。

また、ダンスには音楽が必須となるが、今回曲の編集についてまでの指導が出来なかった。昨今、曲の編集は携帯で行う学生が多い。曲の繋ぎ目であったり、切る場所、余韻等で動きが変わる。音の重要性についての学びも必要であるため、ICTの扱いについても指導をする時間をとる事も大事だと感じた。応用実技では音楽と映像ということにも取り組んでいきたい。

5. おわりに

授業の始めに、スポーツ歴やダンスに対するイメージ、授業での目標等を記入してもらった。目標で多く見受けられた言葉としては、「恥を捨てる」や「苦手を少しずつ減らす」、「嫌いというイメージをなくす」と言った、表現の授業に対してネガティブな言葉が多かった。体で感情を表現することへの抵抗を持つ人はいまだに少なくないことが言えるだろう。しかし、最後の振り返りでは、「楽しかった」や「創作の面白さ」、さらには「見る事の大切さ」などが挙げられ、実際に、「ダンスへの抵抗が減った」などのポジティブな言葉が多く見受けられた。今回の集中講義では、創作にすぐ入るわけではなく、簡単なステップを習得してから動いてみるという、段階を踏んで行ったことが「動ける」という自信に繋がったと考える。段階を踏んで習得していくこと、そして基礎的なステップなどの重要さも再確認することができた。

ダンスのジャンルに捉われるのではなく、まずは表現することの楽しさを体験することで、「苦手」と言う意識を軽減することに繋がるのではないだろうか。表現することの楽しさをまずは教員を目指す学生本人が知ることが大事であると考え、それが学生に伝わったことが伺える。

ダンス＝表現する楽しさであったり、仲間と作品を創り上げる楽しさを体験することで、学生たちの意識の変化が見られたことは成果として大きいと考える。

また、ダンスの楽しさを味わえた学生たちが教員となり、その楽しさを児童・生徒に伝えることが新しい「表現」に繋がるのではないかと考える。

学生の表現性は目新しいものがたくさんあり、教員側の視野も広がり刺激をもらった。

今回の基本実技では、表現運動系に重きを置き授業を展開したが、テクニックや表現だけではないということ、指導者側である立場から、学生の意見や考えに対するポジティブな声かけや方

向性の提供により、学生の意識やイメージが広がり、表現意欲に繋がっていた。表現する自由を制限するのではなく、解放するような声かけ等が重要であると考え。今後は授業内容をより今の学生の気質に合わせて再検討していきたい。

7コマと言う少ない時間ということもあり、創作というよりは元あるダンスの振りを覚えて繋げるといった班もあったり、覚えることに必死になり、創作の時間が少なかったように思う。応用では、基礎的な動きの時間をより多く確保することで、創作活動で動きの幅が広がり、オリジナル性をさらに出せるのではないかと考える。今後は表現系ダンスの授業を自分自身も模索し、学生がより表現系授業に積極的に取り組めるような授業展開を検討していく。

《注》

- (1) 文部科学省 (online) 学校体育の充実, [https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1330882.htm#:~:text=文部科学省では,平成,とすることとしました%E3%80%82,](https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1330882.htm#:~:text=文部科学省では,平成,とすることとしました%E3%80%82,(参照日 2024 年 10 月 15 日)) (参照日 2024 年 10 月 15 日)
- (2) 森清・阿部正臣・梶原洋子・鈴木一郎 (1981) 小学校助教諭の体力・技能と教科体育への意識 (第5報)——表現運動の指導の実態とその意識を中心として——, 文教大学教育学部紀要 15:35-48
- (3) 寺山由美 (2007) 「表現運動」を指導する際の困難さについて-千葉県小学校教員の調査から-, 千葉大学教育学部研究紀要 55:179-185
- (4) 文部科学省 (online) 第一章理論編, https://www.mext.go.jp/component/a_menu/sports/detail/__icsFiles/afieldfile/2013/10/30/1336655_02.pdf, (参照日 2024 年 10 月 31 日)

参考文献

- 寺山由美 (2007) 「表現運動」を指導する際の困難さについて-千葉県小学校教員の調査から-, 千葉大学教育学部研究紀要 55:179-185
- 森清・阿部正臣・梶原洋子・鈴木一郎 (1981) 小学校助教諭の体力・技能と教科体育への意識 (第5報)——表現運動の指導の実態とその意識を中心として——, 文教大学教育学部紀要 15:35-48
- 文部科学省 (online) 学校体育の充実, [https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1330882.htm#:~:text=文部科学省では,平成,とすることとしました%E3%80%82,](https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1330882.htm#:~:text=文部科学省では,平成,とすることとしました%E3%80%82,(参照日 2024 年 10 月 15 日)) (参照日 2024 年 10 月 15 日)
- 文部科学省 (online) 第一章理論編, https://www.mext.go.jp/component/a_menu/sports/detail/__icsFiles/afieldfile/2013/10/30/1336655_02.pdf, (参照日 2024 年 10 月 31 日)

A practical study of expressive dance classes in intensive courses at teacher training universities

Makiko Tsuda

Fumi Sato

Abstract

Dance genres are becoming more diverse, and the number of experienced dancers is increasing. However, some students still resist expressing themselves physically.

In order to lessen the sense of difficulty, it is important for students who aspire to become teachers themselves to know the joy of expression. We will investigate whether there is a change in the students' awareness of their difficulty in expressing themselves through the experience of the joy of creating artworks with their peers.

Keywords: Dance, Embodiment, creation